

令和6年11月21日

令和6年度第8回定例松本市教育委員会

会 議 議 案

松本市教育委員会

令和6年度第8回定例松本市教育委員会付議案件

[議案]

- 第1号 松本市教育長の職務に専念する義務の免除について
- 第2号 松本市育英資金の管理及び処分に関する条例の一部改正について
- 第3号 松本市学校給食の提供について【非公開】
- 第4号 池上百竹亭条例の一部改正について【非公開】
- 第5号 松本市立博物館の臨時開館について

[報告]

- 第1号 令和6年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について
- 第2号 令和7年松本市ハタチの記念式典の開催について

[周知]

- 1 年末年始期間における貸出冊数の変更について

[その他]

教 育 委 員 会 資 料
6 . 1 1 . 2 1
教 育 政 策 課

議案第 1 号

松本市教育長の職務に専念する義務の免除について

1 趣旨

松本市教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例第2条及び松本市教育長の職務に専念する義務の特例に関する規則第2条に基づき、あらかじめ教育委員会の承認を得る必要があるため、教育長の職務に専念する義務の免除に関し協議するものです。

2 職務免除する理由及び内容

(1) 理由

文部科学省が設置する「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」の委員としての業務に従事するため

(2) 内容

図書館・学校図書館の運営の充実に関して、専門的な見地から意見を述べるもの

3 根拠法令

規則第2条第2号関係（別紙のとおり）

担当	教育政策課
課長	小西 えみ
電話	33-3980



○松本市教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例

平成27年3月13日

条例第7号

(目的)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第11条第5項の規定に基づき、松本市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の職務に専念する義務の特例に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(職務に専念する義務の免除)

第2条 教育長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、あらかじめ教育委員会の承認を得てその職務に専念する義務を免除されることができる。

- (1) 研修を受ける場合
- (2) 厚生に関する計画の実施に参加する場合
- (3) 前2号に規定する場合を除くほか、教育委員会規則で定める場合

(委任)

第3条 この条例に定めるもののほか、教育長の職務に専念する義務の特例に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

○松本市教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する規則

令和４年４月２８日

教育委員会規則第９号

(目的)

第１条 この規則は、松本市教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例（平成２７年条例第７号）第２条第３号の規定に基づき、職務に専念する義務の特例に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(職務に専念する義務を免除される場合)

第２条 教育長があらかじめ教育委員会の承認を得て、職務に専念する義務を免除される場合は、次に掲げる場合とする。

- (１) 教育長が職務に関連のある国又は他の地方公共団体の公務員としての職を兼ね、その職に属する事務を行う場合
- (２) 教育長が国又は他の地方公共団体において規則又は規程に基づいて設置された委員会、審議会等の構成員としての職務遂行のため当該委員会、審議会等の業務に従事する場合
- (３) 教育長が市の行政の運営上その地位を兼ねることが特に必要と認められる団体等の役職員の地位を兼ね、その地位に属する事務を行う場合
- (４) 教育長が国、他の地方公共団体又は市の業務と関連を有する団体の事業又は事務に従事する場合
- (５) 教育長が市又は市の機関以外のものの主催する講演会等において、市政又は学術等に関し講演等を行う場合
- (６) その他特別の理由がある場合

附 則

この規則は、令和４年４月２８日から施行する。

議案第 2 号

松本市育英資金の管理及び処分に関する条例の一部改正について

1 趣旨

松本市育英資金奨学金の貸与の対象及び要件の見直し等に伴い、所要の改正をすることについて協議するものです。

2 改正内容

学業成績に関する記載を変更

3 新旧対照表

別紙のとおり

4 施行期日

公布の日等

5 今後の予定

市議会 1 2 月議会に議案として提出します。

学校教育課
課長 清沢 卓子
電話 33-9846

松本市育英資金の管理及び処分に関する条例（昭和40年条例第34号）新旧対照表

改正前	改正後
○松本市育英資金の管理及び処分に関する条例 昭和40年10月21日 条例第34号 改正 昭和45年 6月24日条例第 32号	○松本市育英資金の管理及び処分に関する条例 昭和40年10月21日 条例第34号 改正 昭和45年 6月24日条例第 32号 令和6年12月 日条例第 号
第1条～第5条 [略] (貸与の対象及び要件)	第1条～第5条 [同左] (貸与の対象及び要件)
第6条 奨学金は、次の各号に掲げる要件を備えている者に対して貸与するものとする。 (1) 松本市に引続き1年以上居住していること。 (2) <u>学業成績が優秀な</u> 高等学校又は高等専門学校（以下「高等学校等」という。）の生徒（高等学校等への入学が確実である者を含む。）であること。 (3) 経済的な理由により就学困難と認められること。 (4) 他の制度により別に学資等の貸与を受けていないこと。	第6条 奨学金は、次の各号に掲げる要件を備えている者に対して貸与するものとする。 (1) 松本市に引続き1年以上居住していること。 (2) <u>学習意欲のある</u> 高等学校又は高等専門学校（以下「高等学校等」という。）の生徒（高等学校等への入学が確実である者を含む。）であること。 (3) 経済的な理由により就学困難と認められること。 (4) 他の制度により別に学資等の貸与を受けていないこと。
2 前項に定める者のほか、市長が特に必要と認めた者に対しても貸与することができる。	2 前項に定める者のほか、市長が特に必要と認めた者に対しても貸与することができる。
第7条～第16条 [略]	第7条～第16条 [同左]
	<u>附 則（令和6年12月 日条例第 号）</u> <u>この条例は、公布の日から施行する。</u>

教育委員会資料
6. 1 1. 2 1
博 物 館

議案第 5 号

松本市立博物館の臨時開館について

1 趣旨

市民・観光客の利便性の向上や、まちなかの回遊性に資するため、松本市立博物館を臨時開館することについて協議するものです。

2 臨時開館の内容

(1) 日時

令和7年1月1日（祝） 午前10時～午後3時

(2) 開館箇所

1階（子ども向け展示室を除く。）、2階特別展示室

(3) 開館内容

ア フリースペースの一般利用

イ 指定管理者自主事業として、売店・カフェの営業

ウ 特別展「年越し新春刀剣展～我が家の名刀・刀装具～」の展示室開室（観覧料無料）

エ 講堂等の予約による貸室利用は行いません。

3 周知方法

松本市公式ホームページ、松本市公式SNS及び博物館公式ホームページへ掲載するとともに、プレスリリース等で周知します。

担当	博物館
館長	加藤 孝
電話	32-0133

学びに、遊びや体験を。

子どもが主人公 学都松本のシンカ

報告第 1 号

令和6年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について

1 趣旨

令和6年4月18日（木）に市内全校が実施した「全国学力・学習状況調査」について、松本市における調査結果の分析と考察について報告するものです。

2 経過

R 6. 8. 2 2 第5回教育委員研究会で、「全国学力・学習状況調査（松本市）」速報値を報告

8. 2 5 第2回学力調査検討委員会で、市全体の結果、及び各校における授業改善・充実の重点を共有

1 0. 7 学力調査検討委員による公表案の検討・修正

1 1. 7 第12回松本市校長会で、修正を加えた公表案の報告

3 調査結果の分析と考察について

別紙のとおり

4 今後の予定

1 1. 2 5 松本市ホームページ上にて公開及び市内小中学校へ資料を送付

担当 学校教育課 学校支援室
教育監兼学校支援室長 坂口 俊樹
電話 33-4397

令和6年度
全国学力・学習状況調査の分析と考察

(令和6年11月)



松本市教育委員会
松本市校長会学力調査検討委員会

目 次

令和6年度全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕	・ ・ p 1
--------------------------------	---------

1 教科に関する調査結果

(1) 小学校国語	・ ・ ・ ・ ・ p 3
(2) 中学校国語	・ ・ ・ ・ ・ p 5
(3) 小学校算数	・ ・ ・ ・ ・ p 7
(4) 中学校数学	・ ・ ・ ・ ・ p 8

2 児童生徒質問調査結果

(1) 自己肯定感等に関する状況	・ ・ ・ ・ ・ p 1 1
(2) 他者との関わりや協働的な学びに関する状況	・ ・ ・ ・ ・ p 1 2
(3) 主体的・対話的で深い学びの視点から	・ ・ ・ ・ ・ p 1 3
(4) I C T機器を活用した学習状況	・ ・ ・ ・ ・ p 1 5
(5) 国語に関する児童生徒の興味関心	・ ・ ・ ・ ・ p 1 6
(6) 算数・数学に関する児童生徒の興味関心	・ ・ ・ ・ ・ p 1 7

令和6年度 全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕

調査概要

- ◇調査対象：小学校第6学年、中学校第3学年
- ◇調査実施日：令和6年4月18日（木）
- ◇調査内容：① 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕
② 学習状況等に関する質問調査（児童質問調査、生徒質問調査）
- ◇今年度調査の特徴： 質問調査については、今年度からすべての参加校において、一人一台端末を利用して実施された。教科に関する調査については、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のメッセージが込められた出題であった。

教科に関する調査結果概要

- ◇平均正答率： 平均正答率は、すべての教科（小学校国語・算数、中学校国語・数学）において全国（公立）と同程度である。
- ◇領域別状況： 領域別の平均正答率は、小学校国語「読むこと」、中学校数学「関数」において全国より高く、小学校算数「数と計算」、中学校国語「書くこと」において全国よりやや高い状況である。
- ◇正答率の割合： 正答率4割以下の児童生徒の割合は、すべての教科において、全国と比べてやや少ない。一方で、正答率8割以上の割合は、全国と同程度である。
- ◇問題形式： 問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類である。記述式では、根拠を明らかにして記述したり、答えを導く方法を説明したりする問題が出題されている。小学校・中学校ともにすべての教科の記述式問題において、無解答率が全国より低い。

公表に当たりの基本方針

- 本調査は児童生徒に育成する資質・能力の一部を調査したものであることにご留意ください。また、国語、算数・数学の2教科のみの調査であるため、学習指導要領全体を網羅しているものではありません。
- 教科に関する調査の結果（2頁～）については、平均正答率7～8割程度であった調査問題と、5割未満であった調査問題の中から特徴的なものをそれぞれ1つずつ掲載しました。また、全国との比較を示す際には、正答率の差が±2ポイント未満の場合は「全国と同程度」、差が2ポイント以上の場合は「上回る」「下回る」としました。
- 学習状況等に関する質問調査の結果（8頁～）については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30％、松本市40％の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています。）
- 国立教育政策研究所のホームページのデータを利用して作成しています。また、一部の画像等は、「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査問題より引用しています。

問い合わせ先 【部課名】 松本市教育委員会 学校教育課 学校支援室
【連絡先】 電話：0263-33-4397

1 教科に関する調査結果

1(1) 小学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の児童の割合は全国に比べてやや少なく、正答率8割以上の児童の割合は全国と同程度である。「読むこと」に関する正答率は、全国を上回っている（下記①）。一方、「話すこと・聞くこと」に関する正答率は、全国を下回っている（下記②）。

① 「人物像を具体的に想像すること」に関しては身についている。平均正答率は7割以上で、全国を上回っている。

調査問題 ③ 二 (2)

【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを解答する選択式問題

読むこと

原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することにしました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。

原さんは、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめるために、同じ物語を読んだ島さんと話し合うことにしました。

【話し合いの様子】

原さん 私は、オニグモじいさんがハエの女の子に、「わしみたいなクモが、生きるために食っているのはな」と言ってやめたところが心に残ったんだ。

島さん なぜ、そこが心に残ったの。

原さん この言葉にオニグモじいさんの迷いが表れていると思ったからなんだ。「大きな目をひらいて、いっしょうけんめいに」とあるようなハエの女の子のすなおな姿を見て、自分がハエの女の子を食べる存在であることを、どのように話すか迷っているのではないかな。

島さん そうか。それで結局、オニグモじいさんは、「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」と言ったんだね。

原さん そうだね。物語のいろいろなところを結び付けて考えると、心に残った理由がはっきりしてきたよ。島さんは、どこが心に残ったの。

島さん 私は、「きれいな虹がかんで見えるだけ」という表現がいいなと思ったよ。もう一度物語を読んで、心に残ったところとその理由を考えてみよう。

【話し合いの様子】で、原さんは【物語】を読んで考えたことを話しています。原さんは、物語の何に着目して話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 登場人物の気持ちや考え方
- 2 作者が伝えていること
- 3 物語の構成
- 4 表現の効果

(正答) 1

- ② 「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に関しては課題がある。平均正答率は5割未満で、全国を下回っている。

調査問題 ① 二 (2)

オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを解答する選択式問題

話すこと
聞くこと

【オンライン交流の様子の一部】

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございます。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしようかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ セっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出题されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

(正答) 2

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において、複数の叙述を結び付け、それらを基に登場人物の性格や考え方などを総合して判断する言語活動を大切にしていることが、人物像や物語の全体像を具体的に想像する力の育成に結びついていると考えられる。

一方、②より、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについては課題がある。交流場面などで実際に話す際には、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手に合わせて即興的に話し方を工夫することが大切である。

1 (2) 中学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の生徒の割合は全国に比べて少なく、正答率8割以上の生徒の割合は全国に比べてやや多い。思考力、判断力、表現力等をみる問題の正答率は、すべての問題において全国と同程度か、全国を上回っている（下記①、②）。

- ① 「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」に関しては身についている。平均正答率は約8割で、全国と同程度である。

調査問題 3

物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを解答する選択式問題

書くこと

佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた【ノートの一部】です。

【ノートの一部】

〈登場人物の設定〉

- ・「僕」……紙の辞書。語り手。
- ・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

〈もとにする体験〉

- ・小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
- ・使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しくて困った。
- ・最近はオンライン辞書ばかり使っている。
- ・紙の辞書を久しぶりに使った。

〈物語を通して伝えたいこと〉

紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉

④③②①

④ 出番のない寂しさ。

③ 忘れられるかもしれない不安。

② 久しぶりの出番で感じた喜び。

① 次の出番への期待。

佐藤さんは、【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中から、「最近はオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがより明確に伝わるようにするため。
- 2 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
- 3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさがより明確に伝わるようにするため。
- 4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しくて困ったことがより明確に伝わるようにするため。

(正答) 3

- ② 「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること」に関しては課題がある。平均正答率は4割未満で、全国と同程度である。

調査問題 ② ー 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを解答する選択式問題

読むこと

「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

(正答) 1、2

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項について、意図的・計画的に指導を重ねてきたことが、資質・能力の育成に結びついていると考えられる。

一方、②より、説明的な文章を読むときには、文章の特徴（文章の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりすること）を踏まえて読むことが大切である。

1 (3) 小学校算数

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の生徒の割合は全国に比べてやや少なく、正答率8割以上の生徒の割合も全国に比べてやや少ない。知識及び技能をみる問題（下記①）の正答率は、全国を上回っている。一方、思考力、判断力、表現力等をみる問題（下記②）の正答率は、全国を下回っている。

- ① 「除数が小数である場合の除法の計算をすること」に関しては定着している。平均正答率は7割以上で、全国を上回っている。

調査問題 ④ (1) $540 \div 0.6$ を計算する短答式問題

数と計算

あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。
家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

(正答) 900

- ② 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること」に関しては課題がある。平均正答率が約4割で、全国を下回っている。

調査問題 ⑤ (3) 折れ線グラフから、桜の開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを解答する記述式問題

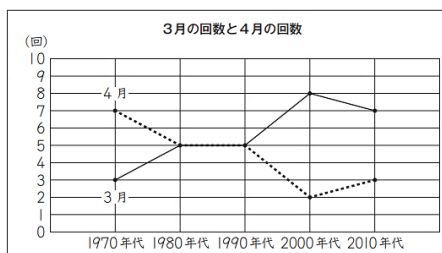
データの活用

こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。

そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のよう

に折れ線グラフに表しました。
折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。



(正答例) 3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数と4月の回数のちがいは6回です。

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において、小数の乗法及び除法の計算が正確にできることを大切にしてきたことが、知識及び技能の定着に結びついていると考えられる。

一方、②より、表やグラフを用いて身の回りの事象について考察することについては課題がある。児童の興味・関心や問題意識に基づき、必要なデータを収集し、分類・整理したり、表や適切なグラフに表したりしたものをもとに示されることを考察するなど、統計的に問題を解決できるようにすることが大切である。

1 (4) 中学校数学

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

平均正答率は全国と同程度である。正答率4割以下の生徒の割合は全国に比べてやや少なく、正答率8割以上の生徒の割合も全国に比べてやや少ない。関数領域の正答率は、知識及び技能をみる問題（下記①）については8割以上だが、思考力、判断力、表現力等をみる問題（下記②）については2割未満である。

① 「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること」に関しては定着している。平均正答率が8割以上で、全国を上回っている。

調査問題 8 (1)

ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを解答する選択式問題

関数

第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてからx時間経過したときの灯油の残量をyLとして、「強」の場合と「弱」の場合のxとyの関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、グラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pでy軸と交わっています。点Pのy座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

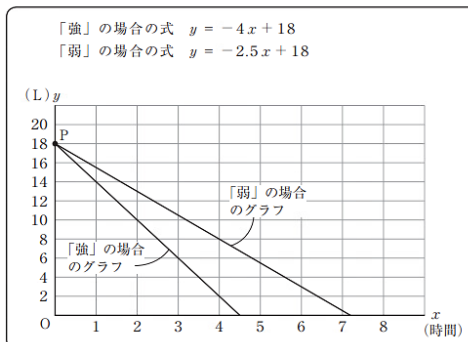
ア ストーブを使用し始めるときの灯油の残量

イ ストーブを使用し始めるときの時間

ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

ストーブの使用時間と灯油の残量



(正答) ア

- ② 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」に関しては課題がある。平均正答率は全国と同程度であるが、2割未満である。

調査問題 ⑧ (2)

18 Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する記述式問題

関数

ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

(正答例) アを選択して
「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

<授業改善・充実に向けて>

①より、日常の授業において事象の中にある関数関係を見だし、数学的に表現・処理したものについて、日常の事象のどの部分にあたるのか考えることを大切にしていることが、知識及び技能の定着に結びついていると考えられる。

一方、②より、問題解決の方法について数学的に説明することについては課題がある。数学的に表現・処理されたものを事象と関連づけながら問題解決していくことや、その過程を数学的な表現を用いて説明することが、思考力、表現力、判断力等を育成する上で大切である。

2 児童生徒質問調査結果

2(1) 自己肯定感等に関する状況

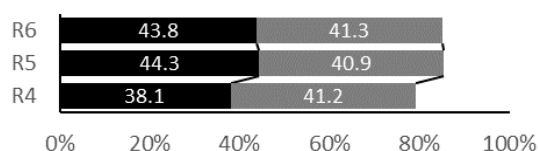
- ①「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、近年増加傾向にある。特に中学校生徒の「当てはまる」と回答した割合は、5年前（平成31年度）より10ポイント以上増加している。
- ②「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は減少傾向であるが、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに約8割で推移している。
- ③「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、8割から9割の間で推移している。
- ④「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加している。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

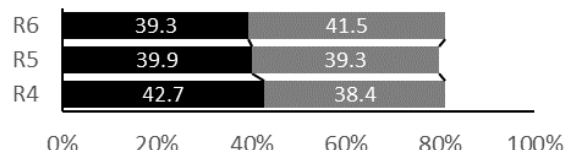
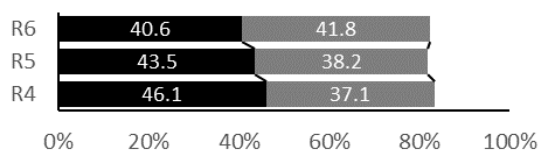
【小学校】

【中学校】

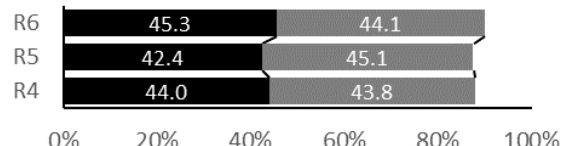
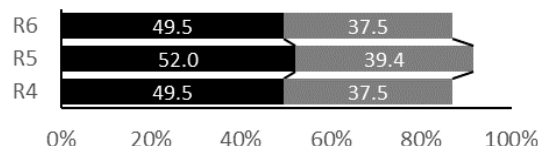
① 自分には、よいところがあると思いますか



② 学校に行くのは楽しいと思いますか

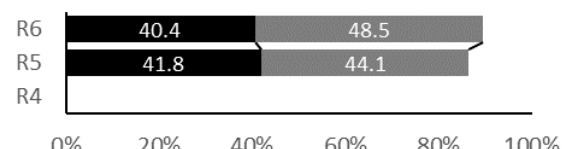
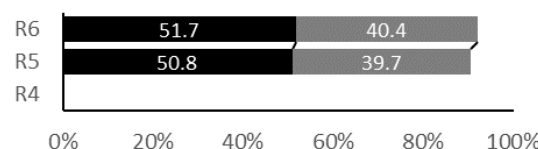


③ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



④ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（※R5からの調査項目）

【凡例】 ■ よくある ■ ときどきある



自己肯定感等を高めていくためには、児童生徒が多様な価値やよさを認め合うことが大切である。そのために教師は、学びに遊びや体験を取り入れたり、異学年との日常的な交流の場を設けたりするなどの工夫をしていくことが大切である。

2(2) 他者との関わりや協働的な学びに関する状況

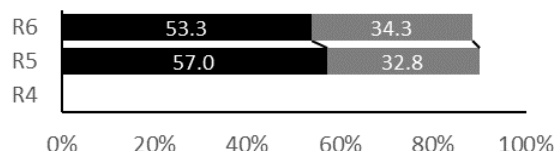
- ①「友達関係に満足していますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではやや増加しており、中学校ではやや減少している。
- ②「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、7割から8割の間で推移している。
- ③「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに9割を超えている。
- ④「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加し、中学校では減少している。
- ⑤「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加している。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

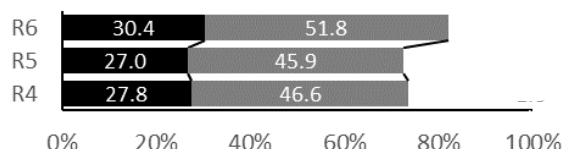
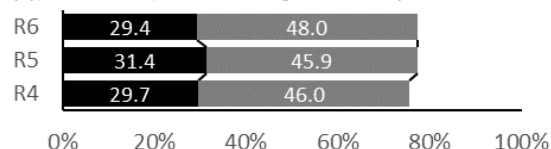
【小学校】

【中学校】

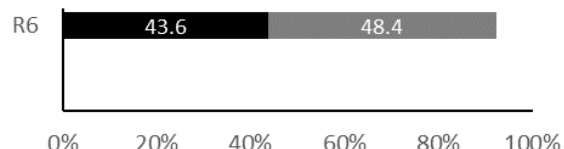
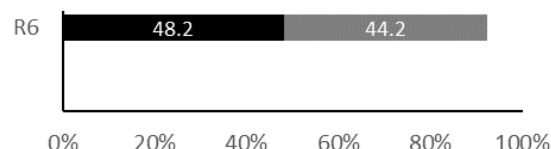
① 友達関係に満足していますか（※R5からの調査項目）



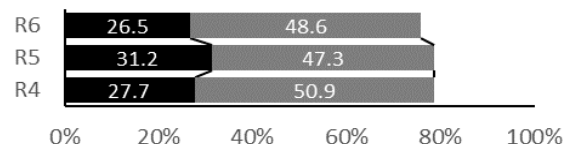
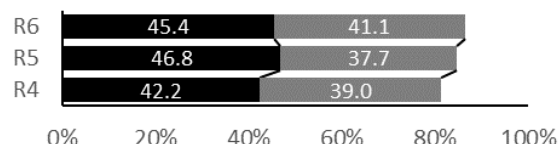
② 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



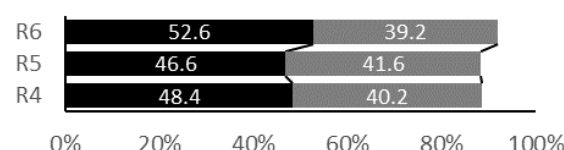
③ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか（※R6からの調査項目）



④ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



⑤ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか



話し合いや他者との協働の土台は、児童生徒同士や、児童生徒と教師のあたたかな関係性である。これからも、心理的安全性が高い授業づくりを進めていくことが大切である。

2(3)－1 主体的・対話的で深い学びの視点から

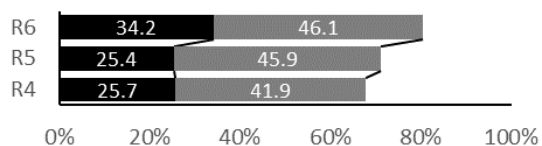
- ① 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加傾向にある。特に、中学校において「当てはまる」と回答した生徒の割合は、学習指導要領改訂前（平成28～31年の平均10.6ポイント）と比べると2倍以上増え、全国平均に近づきつつある。総合的な学習の時間が、生徒にとって探究的な学びを実現する時間となってきた表れと考えられる。
- ② 「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに8割を超えている。
- ③ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では8割前後、中学校では7割前後で推移している。
- ④ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともにやや増加して6割を超えている。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

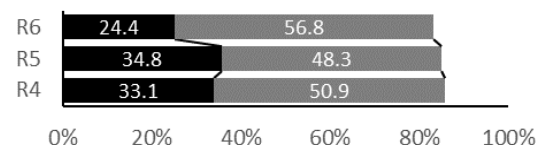
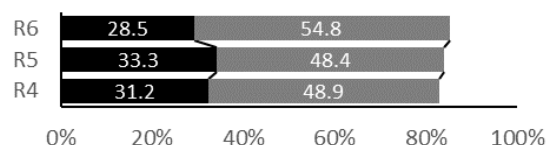
【小学校】

【中学校】

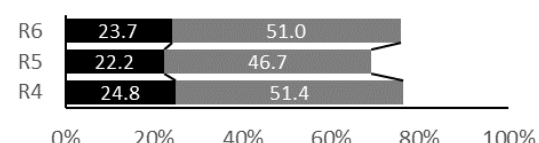
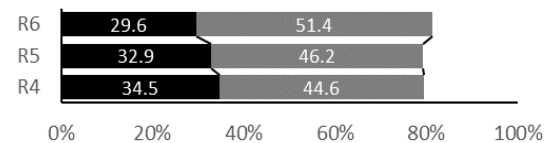
- ① 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



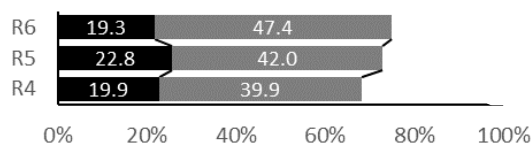
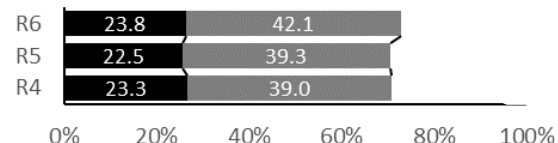
- ② 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



- ③ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



- ④ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



「主体的・対話的で深い学びの視点から」は、次ページに続きます。

2(3)－2 主体的・対話的で深い学びの視点から

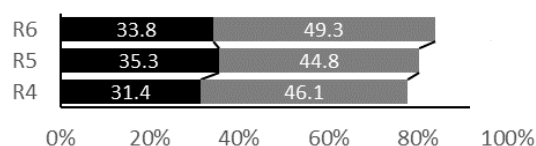
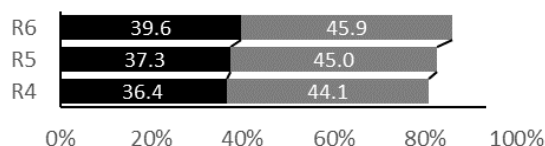
- ⑤「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加している。
- ⑥「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加している。
- ⑦「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともにやや増加して8割を超えている。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

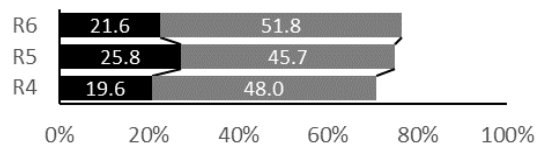
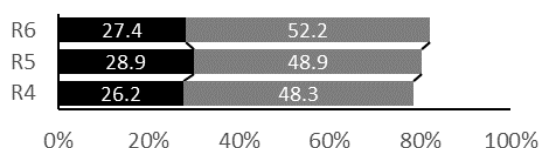
【小学校】

【中学校】

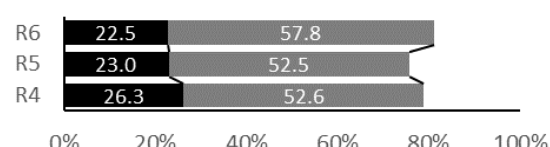
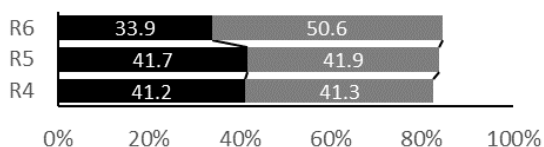
- ⑤ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



- ⑥ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



- ⑦ 前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



総合的な学習の時間の改善（結果①）に限らず、教科や特別活動などすべての教育活動において、児童生徒が自ら課題を見つけ、情報を収集し、整理・分析しながら問題解決に取り組み、明らかになったことを表現していく一連の営みが大切である。

2(4) ICT機器を活用した学習状況

- ①「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問では、ICT機器の使用頻度が「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は減っているが、小学校では「週1回以上」、中学校では「月1回以上」と回答した児童生徒の割合は令和5年度より増えている。
- ②～④「前年度までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、②～④のいずれの質問においても、小学校・中学校ともに全国と同程度である。ただし、「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合は、②～④のいずれの質問においても、小学校・中学校ともに全国より低い。

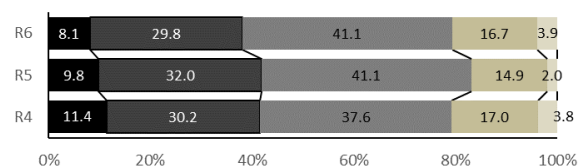
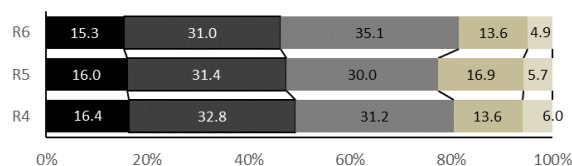
【小学校】

【中学校】

- ① 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【凡例】

■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

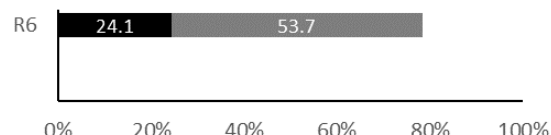
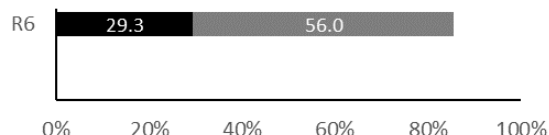


前年度までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

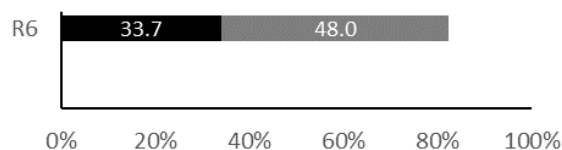
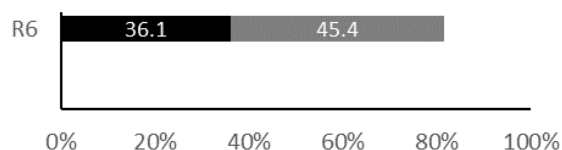
- ② 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる（※R6からの調査項目）

【凡例】

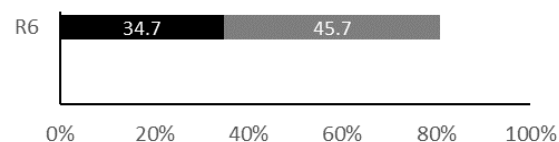
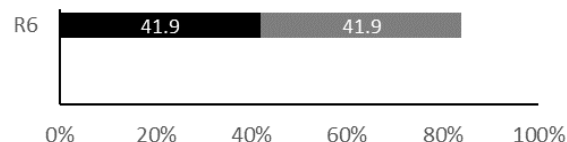
■ とても思う ■ そう思う



- ③ 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる（※R6からの調査項目）



- ④ 友達と協力しながら学習を進めることができる（※R6からの調査項目）



単元や題材に応じて同時共同編集機能を活用し、互いの考えを参照しあうことを通して「協働的な学び」の充実を図ることが大切である。また、ご家庭でも利用促進に向け、一層のご理解・ご協力をお願いしたい。

2(5) 国語に関する児童生徒の興味関心

- ①「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、令和5年度と比べると、小学校ではやや減少しており、中学校ではやや増加している。
- ②「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに9割を超えて推移している。
- ③「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では9割近くで、中学校では8割を超えて推移している。
- ④「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに9割を超えている。

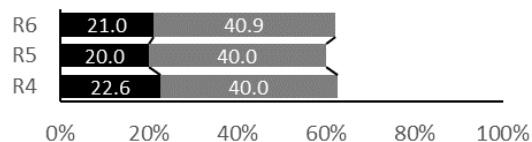
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

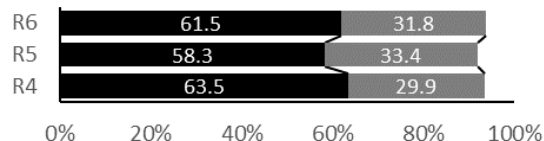
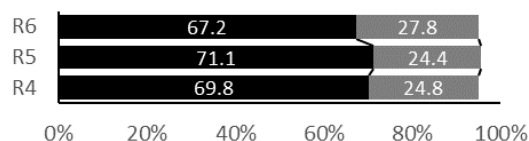
① 国語の勉強は好きですか



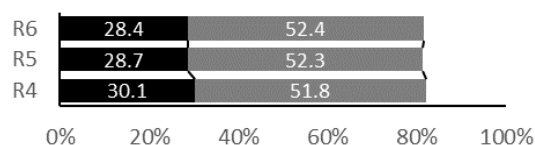
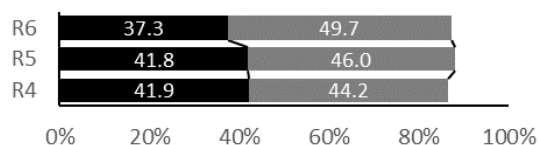
【中学校】



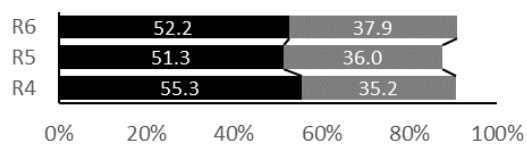
② 国語の勉強は大切だと思いますか



③ 国語の授業の内容はよく分かりますか



④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



2(6) 算数・数学に関する児童生徒の興味関心

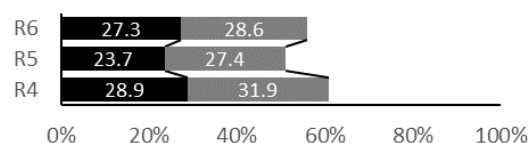
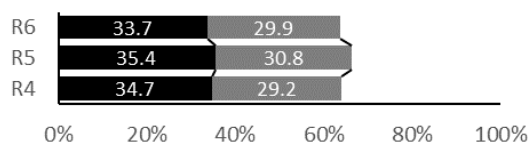
- ①「算数・数学の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では6割を超えて、中学校では5割を超えて推移している。
- ②「算数・数学の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では9割を超えて、中学校では9割近くで推移している。
- ③「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では8割を超えて、中学校では7割を超えて推移している。
- ④「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では9割を超えて、中学校では8割近くで推移している。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

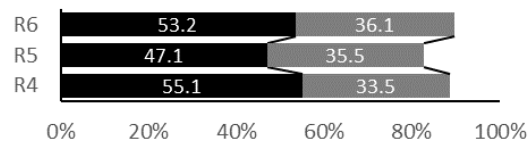
【小学校】

【中学校】

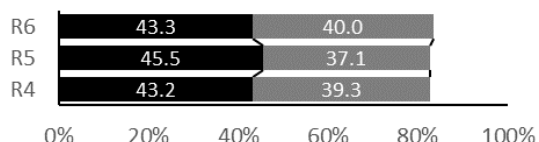
① 算数・数学の勉強は好きですか



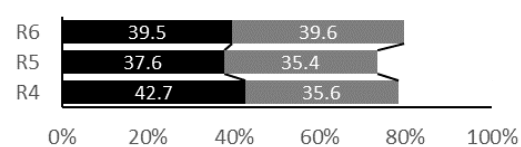
② 算数・数学の勉強は大切だと思いますか



③ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



④ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



教育委員会資料
6. 11. 21
生涯学習課

報告第 2 号

令和7年松本市ハタチの記念式典の開催について

1 趣旨

将来の可能性に挑戦する二十歳の方々を祝い励ますため、令和7年松本市ハタチの記念式典を開催することについて報告するものです。

2 式典概要

- (1) 日 時 令和7年1月12日（日）
- (2) 場 所 松本市キッセイ文化ホール 大ホール
（松本市総合体育館は、令和7年3月まで耐震化及び内装改修工事のため使用不可）
- (3) 主 催 松本市・松本市教育委員会
- (4) 参加対象者 平成16年4月2日から平成17年4月1日生まれ
2, 250人（令和6年9月1日現在）
- (5) 企画運営 令和7年松本市ハタチの記念式典実行委員会（対象者8名で構成）
- (6) 実行委員会による企画の主な特徴
 - ア 企画・運営を例年以上に実行委員会に一任
 - イ 参加者全員参加型のクイズ大会（松本に関するクイズを出題し、座席の島ごとにチームを編成し、回答する）を実施
 - ウ 記念写真をデータ提供に変更（従来は現像した写真を郵送）
 - エ 受付方法、パンフレットの電子化（昨年度から実施し、好評であったため）

(7) 開催内容

区 分		内 容
1	式典の形態	・ 2部制（会場の収容人数によるもの） ・ 第1部 11時30分～12時20分 ・ 第2部 15時～15時50分
2	席の配置、座席数	・ 第1・2部共に出身校ごとに席を指定 ・ 1階席のみ使用（1階 1, 330席 車椅子対応10席）
3	式典内容	・ 20年間を振り返る企画映像上映 ・ 市長プレゼン ・ 来賓紹介 ・ クイズ大会（1位グループに景品贈呈）
4	出席記念品	松本市美術館、博物館の無料券を予定
5	記念写真	・ 式典終了後、出身中学校毎に3カ所で撮影予定 ・ 第1部 12時25分～13時05分（予定） ・ 第2部 15時55分～16時35分（予定） ・ 写真は後日、データを対象者に送信

(8) その他

ア 式典会場は、混雑を避け、かつ会場の収容人数に限りがあるため、対象者のみ入場可とします。

イ 式典の様子は、Y o u T u b eでライブ配信および録画配信を実施する予定です。

ウ 式典開始前から、対象者に利用してもらうことを目的に、会場南西側の広場にキッチンカー3台が出店する予定です。

エ 対象者あての案内通知を11月8日付で郵送しました。

(9) 今後の対応

ア 松本市ホームページ、L I N E掲載(12月中旬)、広報まつもと12月号で周知します。

イ 当日に向けてあと2回の実行委員会を開催する予定です。

担当	生涯学習課
課長	廣田 圭男
電話	32-1132



学びに、遊びや体験を。

子どもが主人公 学都松本のシンカ

教育委員会資料
6. 1 1. 2 1
中央図書館

周知事項 1

年末年始期間における貸出冊数の変更について

1 趣旨

令和3年度から実施している年末年始等の長期休館中における貸出冊数の変更について、本年度も実施することについて周知するものです。

2 実施内容

(1) 年末年始休暇期間

令和6年12月29日（日）～令和7年1月3日（金）

(2) 貸出冊数を変更する期間

令和6年12月25日（水）から12月28日（土）の3日間

※27日（金）は第4金曜日のため全館休館

(3) 貸出冊数の変更内容

「貸出冊数10点まで」を「貸出冊数15点まで」に変更

(4) その他

ア 視聴覚資料の点数（5点まで）、予約点数（10点まで）の変更は行わない。

イ 実施期間の貸出の返却予定日（※年末年始休館を除く14日間）

貸出日	返却予定日	貸出日数	備考
12月25日（水）	1月15日（水）	22日間	
26日（木）	15日（水）	21日間	
28日（土）	17日（金）	21日間	

3 周知方法

(1) 図書館の館内掲示、チラシ、FMまつもと等により周知します。

(2) 市ホームページ、図書館ホームページ、図書館 Facebook および図書館 X に掲載します。

担当 中央図書館
館長 藤森 千穂
電話 32-0099